

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500687		
法人名	株式会社日本医療事務センター		
事業所名	グループホームきらめいと土気		
所在地	千葉県千葉市緑区土気町446-6		
自己評価作成日	平成23年10月21日	評価結果市町村受理日	平成24年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1270500687&amp;SCD=320">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1270500687&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成23年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「心」を大切に職員全体でご入居者様が日々笑顔で楽しく生活していただけるケアに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「心」という理念を管理者と職員が共有し、一人ひとりの今を優しくみつめようという気持ちを大切にケアすることを心がけている。入居の際に家族自らを書く「バックグラウンドシート」には、利用者の入居までの生活歴や家族の思いなどが綴られており、それをもとに個別支援計画が作成され、その人に添ったサービスの提供に努めている。介護職員のシフト体制に管理者、看護師、調理担当職員の3名が常に加わる手厚い人員配置にもなっている。管理者と職員の信頼関係、職員間のチームワークの良さが、日ごろのケアや看取りの場面における「心」のある利用者本位の支援につながっていることがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心」という理念を掲げ、職員と共有し、入居者の心に寄り添うよう日々の業務に取り組んでいる。	管理者と職員が、一人ひとりを思いやり、その人のいまを優しく見つめる「心」という理念を共有にしていることが伺える。運営会議では常に理念を振り返っての建設的な意見交換を行い、日ごろの支援に生かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れを行っている。日常的な交流まではいかないが、夏祭り等の行事の際に協力して頂くなど徐々に機会は増えてきている。	周囲を山林で囲まれたホームは地域交流が難しい面があるが、「地域の人に来てもらえるホーム」「地域へ発信していくホーム」を目指して努力している。夏祭りでは、近隣の人に働きかけ、竹で流し素麺の器具作りに協力してもらった。	少しずつ地域との交流が推進されている。運営推進会議を充実させ地域とのつながりに活かしていくことや、学校・保育所等との交流の実現など、今後も積極的で前向きな取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内の体制確立を優先させたため、現状は取組めていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、地域包括支援センター職員、民生委員、介護相談員、町会長、入居者家族と意見交換を行い、実際のサービス向上に努めている。	年に4回開催しており、ホームの取り組みや課題などについて活発な意見交換を行っている。会議はイベントと絡めて開催するなど、家族が参加しやすい配慮もしており、家族の出席率は高い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢施設課とは、必要に応じて電話やメールで連絡を取っている。千葉市認知症高齢者グループホーム連絡会、千葉市相談員の意見交換等を通じて話し合う機会を作っている。	管理者は毎月のグループホーム連絡会や年に2回の介護相談員と高齢者施設の管理者らによる会議に積極的に参加し、交流・意見交換を行っている。その学びや視野の広がりをホームの運営に活かそうとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けて、所内研修では身体拘束について職員全員が参加し学び、言葉による拘束もないよう意識し実践している。	管理者と職員は身体拘束をしないケアについて共通認識を持ち実践している。ドアの施錠もことばによる「阻止」もせず、外に出て行く人がいる場合も職員は本人が納得するまで一緒に歩くなど、その人に寄り添った支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が講師として研修を行い、職員すべてが学べる機会を持ち、日々の業務を通じて職員に意識付けし防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に周知出来ていないため、制度について全員が理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、不明な点がないか確認を行い、分りやすいように説明している。退居時は事前に十分話し合い、納得頂いた上で手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は近況報告をし、その際家族からの意見も聞いている。意見、要望は運営に活かせるよう努力している。介護相談員も月1回2名来訪され運営上活かせるよう努めている。	家族の訪問が多く、日ごろから家族の意見を聞く機会があるが、年に1回アンケートも実施している。家族会が結成され、会長はボランティアとしてもホームに関わるなど、家族とホームの信頼関係も構築されており、意見交換も活発に行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や随時個別に面談を行い、意見や提案を聞く機会を設け、検討を行っている。	運営会議、ユニット会議、研修、また毎日の申し送りや随時行われるカンファレンスなどで職員は活発に意見を出し合っている。管理者はそこで出された意見や個人面談で聴取した職員個々の思いを受け止め、運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与に関しては本社が管理しているが改善には努力している。 研修会議を定期的に行う環境づくりに心掛け、スキルアップを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人にはエルダー(相談役)を設けている。 法人内外の研修への参加や毎月職員で構成した研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内が必要に応じ、系列事業所を訪問し、サービスの質を見直し向上させる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない入居者に対しては特に気を配り、環境変化で不安も多いため、特に声掛けし本人の話を聴き、不安や求めていることを職員間で共有し、信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを十分取るようにし、困っていること・不安を感じていること等話す機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居して頂き、本人が共同生活に馴染み、生活を送れるかを見極め、難しい場合には、他のGhや施設等を紹介するなどの支援は行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔話を聞き、一緒に笑ったり悲しんだり共に過ごしている。また、生きる力を学び、生きる知恵を教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が安心して楽しく暮らせるよう家族と協力しあい、職員も家族の一員とした考えを持ち、本人を支えられるような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力して頂きながら支援を行っている。入居前から行っていた趣味サークル等継続している。	家族、友人、稽古の仲間、仕事をしていた頃の関係者など、利用者を訪れる人たちは多い。入居前から行っていた趣味の集いに通ったり、遠方まで墓まいりに出かける人もおり、家族の協力を得ながら、これまでの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その月の状態を把握し、精神的に落ち込み部屋に閉じこもり気味な方は職員の関わりを増やしている。 職員と同行し、重度の方のお見舞いに居室訪問されることもある。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去理由は様々であるが、退去後の関係はほとんどないが、必要に応じ本人(施設)への訪問を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい自立した生活を送って頂くために、入居者様本人、ご家族にも希望をお聞きし、希望に沿えるように努めている。	バックグラウンドシート(現在に至るまでの詳細な生活歴)を家族に提出してもらい、入居者の暮らし方の理解に努めている。入居後も家族と連携し、入居者の意向に沿えるよう、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家で暮らしていた頃と限りなく近い生活をして頂けるように、ご本人様の趣味嗜好等と生活歴を考慮したケアをするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりのADLや健康状態に合わせて、1日を過ごして頂けるようケアしている。また、少しでも変化があれば、職員全員で共有できる環境作りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望、主治医や看護師のアドバイスを積極的に取り入れるよう努め、介護計画を作成している。	介護計画は居室担当者を中心に作成している。統一したケアが行えるよう、職員間で具体的かつタイムリーな情報交換を行い、医師・看護師・家族の意見も積極的に取り込みながら計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どのような声掛けをしたか、どんな事を仰っていたか等の具体的な記録をするように職員間で徹底し、ケアの統一を図り、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせて支援できるように努めているが、十分に多機能化が出来ているとは言えない。今後の課題としていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	尺八やウクレレのボランティアを招き、暮らしを楽しんで頂けるように努めているが、地域資源を十分に活用しているとは言えない。今後の課題としたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、2つの病院と提携しており、その人に合ったかかりつけ医をご家族とも相談の上で選んで頂けるように支援している。	入居前からのかかりつけ医や専門医の受診と併せ、訪問診療・訪問看護・歯科と提携している。訪問診療は月2回の往診、訪問看護は隔週で行われ、入居者や家族が、希望に沿った支援を受けられるよう、複数の医療機関と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	どんなに小さいことでも、職場内の看護師と週1回の訪問看護師に相談し、入居者様の体調変化を見逃さないように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護要約を作成し、入院時には迅速に情報を伝える事ができるよう努めている。また主治医にも、密な連絡、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と共に、ご家族様に十分に説明を行い、医療関係者と協力してチームでの支援を行っている。	職員は、入居者が重度化や終末期に至っても最後まで過ごすことのできるホームでありたいという思いを持っている。入居者や家族が希望すれば、連携医療機関の指導の下で看取る体制を整え、看護師とも方針を共有して支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生等の研修を行い、急変時にも慌てずに対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中帯、夜間帯ともに、避難訓練を行い、災害時に対応できるように努めているが、災害時の地域との協力体制は十分に取れているとは言えない。	今年度スプリンクラーを設置した。東日本大震災後は、天井の電灯を鉄のロープで固定したり、災害非常時は家族と携帯メールで連絡を取り合うことなどを決めた。災害マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行っている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通して、言葉による拘束、その状況にあった言葉かけについて学び、プライバシーに配慮した対応を職員全員ができるように努めている。	接遇研修に力を入れている。法人研修では、コミュニケーション能力を養う研修と試験を定期的に行い、職員間で共有できるようにしている。介護方針10ヶ条を居間の壁に貼り、節度ある対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中から入居者の訴えに対して、それはできないと否定するのではなく、共感の姿勢を持って傾聴する事で、希望の表出や自己決定できる環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、入居者の趣味等を考慮し、その人らしく過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選べない方には、ご家族様から伺った好みや、ご本人の言葉を大切に、おしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに合わせた食事を提供できるように努めている。 また準備の際に、できる方にはお手伝いを依頼し、食事を楽しめるように支援している。	入居者は準備や後片付けを職員と一緒にやっている。誕生日会は、居室担当者の企画により外食をしている。晴れた日は外気浴を兼ね、家族会から寄付されたテントでお茶を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を摂って頂く際は、全員同じものではなく、好みに合わせたものを提供している。 また食事が進まない時は、時間をずらしたり、違うものを提供する等の工夫を行い、十分に取れるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一人ひとりの入居者に合わせて声掛けや介助にて口腔ケアを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの理解に努め、出来る限り自立した排泄ができるように支援している。	排泄については、身体機能に応じた支援を看護師と共に検討している。個々の排泄パターンを把握しながらコントロールを行い、声かけや誘導による自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医、看護師にも確認し、便秘が及ぼす影響を理解し、便秘にならないように排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り、希望があれば入浴ができるように努めているが、すべての入居者様の希望に沿った入浴はできていない。	その日の早番が入浴を担当しているため、入浴時間は概ね決まっているが、入居者の希望には出来る限り沿うように努めている。入浴を拒む人に対しては、声かけを工夫し、無理のない対応をするようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の体調や疲労を考慮し、状況に応じて十分に休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変化があった時など、申し送りを徹底し、すべての職員がどのような薬なのかをしっかりと確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味等をご本人様、ご家族から十分に確認し、また、レクや行事等で楽しく日々を過ごして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前よりも、外出支援の機会は増えてはいるが、一人ひとりの希望に沿った外出支援はまだ行えていない。	地域の趣味のサロンに職員と一緒に通う人、買い物やドライブ行く人、個別の食事会、ホームで飼っている犬の散歩など定期的な外出支援が行なわれている。家族とホームの信頼関係が、家族の協力で結びつき、積極的な外出につながっている。	

【評価機関】



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人にとって、本当に必要なものなのかを、ご家族および職員間で相談し、購入するように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から希望があった際は、電話や手紙のやり取りに対応できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンなどは、刺激が少ない色のものを取り入れている。また、その季節に合った掲示物を掲示し、季節感を感じて頂けるように工夫している。	自然に囲まれた環境にある平屋建て木造作りの建物は十分な広さがある。壁には入居者の習字や月毎のイベントのお知らせなどが貼られている。居間からの眺めもよく、居心地よく過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際など、気の合う入居者様を近くの席にするなどの配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好みに合わせて、洋室、和室を選んで頂けている。また、ご家族とも相談し、使い慣れたものを持ってきて頂くようにしている。	入居者の状態に合わせ、家族と相談しながら家具の増減を適宜行っている。フローリングと畳の部屋があり、持ち込まれた家具や馴染みの品が配置され、一人ひとりの好みに合わせた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が移動する際に、障害物となり得るものは置かず、安全に自立して生活を送れるように支援している。		

【評価機関】